

安芸市事前復興まちづくり ワークショップニュース

伊尾木地区 第1回(令和8年7月6日開催)

7月6日(月)、伊尾木公民館で「伊尾木地区事前復興まちづくり計画策定 第1回ワークショップ」を開催しました。グループワークに先立って、過去の大規模災害からの復興事例を紹介し、「復興まちづくり」のイメージを共有しました。

伊尾木地区の将来のまちづくりを検討するにあたって、第1回のワークショップでは、3つのグループに分かれて地区の「これまで」や「現在」のこと、「取組に対する率直な意見」、などについて意見を交換しました。

事前復興まちづくり計画とは？

これまで安芸市では「命を守る」対策として、津波避難タワーや避難路の整備、「助かった命をつなぐ」対策として、避難所運営マニュアルの作成など、住民の皆さんと一緒に取り組んできました。「事前復興まちづくり計画」は、南海トラフ地震による被災後、一日でも早く復興に向けた取り組みを始めるために、復興後のまちの姿を事前に検討しておくものです。

この計画と、これまでの取組をつなげることで、地域に住み続けられる「安全安心」と「持続可能性」を高めていくことが目的です。

南海トラフ地震の発生

これまでの取組

命を守る

- 強い揺れに対する備え
- 津波からの避難 など



助かった命をつなぐ

- 避難所の開設と運営
- 外部からの支援の受入など



これからの取組

復興まちづくりについて、
事前に皆様と一緒に
考える

生活を 立ち上げる

復興まちづくり

- 安全なまちづくり
- 仮設から恒久的な住まいの確保
- 教育や福祉、暮らしの再建
- なりわいの再生 など

次回ワークショップ開催のご案内：令和8年10月26日(月)19:00～伊尾木公民館

ワークショップテーマ

事前復興まちづくり計画を作成するにあたって
地区の「これまで」や「現在」、「取組に対する意見や感想」

● 地域の特性

地区の現状

- 段丘上に若い農家が多い
- 高齢者が多く、空き家も増えている
- 国道沿いの標高が低い土地は利便性が高く、主要施設が集まっている

困っていること・不安なこと

- 津波浸水後の塩害被害による農業復興の遅れ
- 防災への関心が低く、他人事になっている

残したいところ

- 伊尾木八幡宮、金比羅、お祭り、榎の木を残したい
- 伊尾木川や伊尾木洞を残したい



● 社会インフラ

困っていること・不安なこと

- 道路が狭く、避難できるか不安
- 地震で斜面崩壊や土砂災害が起きるのではないか
- 道路の閉塞や橋の落下、交通アクセス不全によって、緊急車両の進入困難
- 竜王池の決壊による浸水被害
- 仮設住宅、恒久住宅の建設用地の不足と選定の遅れ
- 被災後の住宅再建手法の選択肢の不足



これからのまちに必要なもの

- 高台までの道路整備が必要
- 災害対策拠点になるパーキングエリアの整備
- 高規格道路に側道があれば避難場所に利用可能
- 河口に水門があれば津波被害が軽減できる



● 津波避難・避難所確保

地区の現状

- 夜間は避難経路が暗い
- 即時避難や浸水想定区域は認知されているが、訓練による避難の検証は不足している
- 避難タワー、テント避難スペースの避難訓練未実施



困っていること・不安なこと

- 保育所が唯一の避難所である
- 身体機能低下者は避難タワーへの避難が難しい
- 津波到達時間や避難経路に対する心配
- 渋滞発生により車避難での逃げ遅れ
- 通信障害による被害情報の把握困難
- 避難所の衛生環境悪化と健康被害
- ペット同伴による避難所入所
- 避難先としての集会所の収容力不足
- 単身被災者の孤立化やコミュニティ喪失のリスク
- 高齢者だけで組み立て式トイレ等の設置困難
- 買い物環境の脆弱化と孤立リスク

これからのまちに必要なもの

- 避難タワー上部に非常食や生活備蓄品の設置
- 災害を見据えた井戸の設置

● 計画策定の取組に対する意見

- 災害対策に関する情報を共有する場の設置
- 被災地から復興について学ぶ
- 歴史・文化・名跡を後世に残していく
- 若い世代の取組への参加
- 仮設住宅、復興住宅の移転先の検討
- 東山森林公園は広大で駐車場も広い、災害時に活用できるのではないかと



お問い合わせ先

安芸市危機管理課

※掲載スペースの関係により、すべての意見を載せてはおりません。ご了承ください。



0887-37-9101



0887-35-4445



kikikanri@city.aki.lg.jp